「ただいま」と言わせて

DO THI HOAI NHO
教育学部　日本語・日本語文化研修留学生　ベトナム

6 月が知らぬ間に終わった。和歌山に来てからもう一年近くたった。あと 3 ヶ月で帰国する。ふいに息を吸う間もないくらい忙しくなったことに気づいた。 貿易大学を卒業するため、早く戻らないといけないし、和歌山大学では完璧な 成績をとらなければならない。非常に困っていて糸に巻かたような状態になっている。それに梅雨で雨が降ったり止んだりすることで気分も悪くなったな・・・ でも、それほど悪くない。気分が悪いのは、和歌山から離れる日が近づいてるせいだ。やはり別れるのはいつもいつも悲しくて「さよなら」とは絶対言いたくない。和歌山というのは、いつの間にか私の心に染みついてしまっている。もう離れたくなくて、ずっと和歌山にいられればいいのにと思っている。

去年の 9 月、和歌山で来てから初めての自立的な生活をし始めた。関空から和歌山直行のリムジンバスに乗り、バスを降りたとたん、全く知らない景色を見てパニックになった。これからはどうなるのだろうかと心配だった。ラッキーなことに、和歌山での生活は思ったより非常に落ちつけるのだ。

和歌山を離れるかと思うと、寂しくて泣きたくなる。今、ここで出会った人々のことをはっきり思い出すことが出来る。あの人とはあそこでこんな話をしたなぁ、とか、あの先生はいつも優しくて授業で面白い話をしてくれたなぁ、とか…。

一年間は長いか短いかと聞かれたら、私は『「あっ !」という間に終わったような気もするし、もう何年も前から和歌山で出会えた皆さんと一緒にいたような気もする』と答えるだろう。2 ヶ月後、皆さんのいないところに行く私はきっととても寂しくなると思う。

私は和歌山大学で出会えた人々が大好きだ。両親のような人も、おばあさん・おじいさんのような人も、子供っぽい人も、大人っぽい人も、 様々いるが、みんないつも私に優しくしてくれる。私を暖かく迎えてくれて「ありがとう」と何度も言いたい。和歌山に来てみなさんと友達になって、一緒に笑ったことや泣いたことは決して忘れない。

最後に、私が不思議に思ったことをお話ししたい。和歌山に来てから、10 年間ずっと苦しんでいる偏頭痛が自然に治った。偏頭痛になった原因は不思議で、それが治るきっかけも不思議だ。偏頭痛になったのは私が小学校の 4 年生のころだった。当時の私は両親と一緒ではなく、祖母と祖父が私を育ててくれた。祖母は母の役割もしてくれて、大好きだった。祖母がいることで、唯一の幸せを感じた。ある夕方、私が学校から帰宅した時、 近所からこんな知らせが耳に入った。

「お祖母さんが亡くなられたよ」。まだ幼かった私はそういうことを理解できず、祖母の眠っているような姿を見て、目の奥が乾いてしまった。涙が出られなかった。久しぶりに会った母はこう言っていた。

「冷たいね、あなたは。ただの近所の子で祖母と何の関係もない子どもでも、祖母のことに泣いているのに」

私は一言もいえなく、3 日間眠れず、祖母の棺のそばに座っていた。目の乾きが続いて頭がガンガンとし始めた。それから、その痛みは 3 年間も続いて偏頭痛になった。特に夕暮れの太陽が沈むちょっと前、頭の左側が痛くなる。でも夜には治っている。母は祖母の置き土産だと言っていた。ということで、偏頭痛は起きたり治ったりしてずっと 10 年以上つづき、その苦しみにすっかり慣れてしまった。

しかし、和歌山に来てそれが一度も起きていない。夕暮れが来ても全然 偏頭痛を感じていない。和歌山は人も少ないし、静かで落ちつけるところだ。そしてここで出会えた人々も素敵で優しく支えてくれて、「泣く」ということを知らない私を感動させた。やっと私は本気に笑えたり泣けたりすることが出来た。やっと幸せな日々を天国にいる祖母に見せられた。確かな幸せを感じることができ、過去の痛み、すなわち祖母からの置き土産が自然になくなった。もう半年が過ぎ、偏頭痛は完全に治った。これからは和歌山にいた時間を思い出にして、心に保管し、きっと素敵な人生を送りたい。素晴らしい所から出たからぜひ素晴らしい人間になりたい。

最近、日本事情という授業がきっかけで、和歌山の素敵なことを沢山知った。やはり外国人の私には、見たり、体験したい和歌山はまだまだ沢山あるが、時間はあまり残っていない。 帰国しても和歌山に戻ってくることを楽しみにしている。昨年のように関空から和歌山直行のリムジンバスを降りた時、

「はじめまして」の代わりに、「ただいま」と言いたい。